Shiga Museum of Art
PRESS RELEASE　2022.12.14

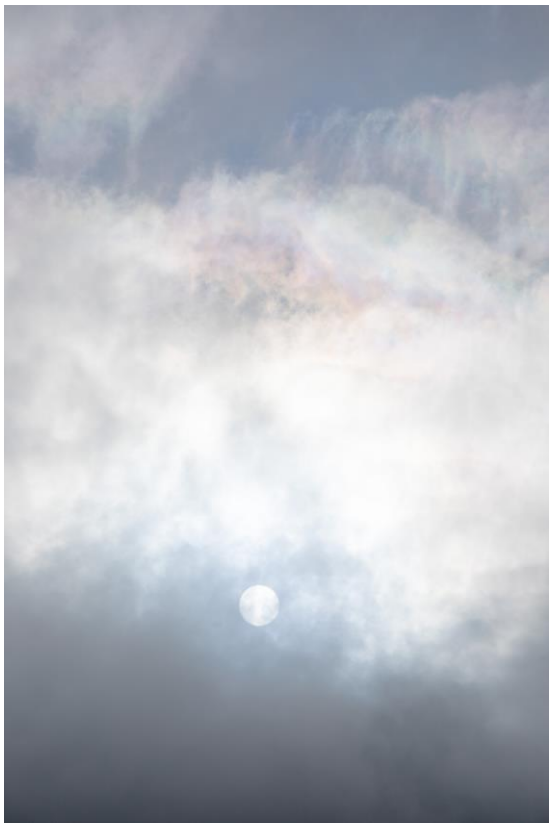
Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

提供年月日:令和4年(2022年)12月14日
所　　属　　名:滋賀県立美術館
担 当 者 名:福山(広報担当)、荒井、芦髙
連　　絡　　先:077-543-2111
E - m a i l:museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館　企画展

「川内倫子:M/E　球体の上 無限の連なり」

2023年1月21日(土)～3月26日(日)



左①《無題》2020、右②《無題》2019（シリーズ〈M/E〉より）

［見どころ］ ＊滋賀県生まれの写真家、川内倫子の国内では6年ぶり、そして故郷である滋賀ではじめてとなる大規模個展。この10年の活動に焦点を当て、未発表作品を織り交ぜながら川内の作品の本質に迫る。

＊写真に加え、映像作品やインスタレーションなど多彩な表現を展示。

＊東京オペラシティアートギャラリーと当館の2館を巡回。西日本では当館が唯一の開催。

＊川内倫子は、デビュー作で写真界の芥川賞とも称される木村伊兵衛写真賞を受賞。2022年11月には、国際的な写真賞である Sony World Photography Award 2023 特別功労賞を日本人ではじめて受賞するなど、国内外で高い評価を受けている。

＊中山英之建築設計事務所が会場デザインを担当。

＊本展の開催に合わせて、常設展でも特集展示「川内倫子と滋賀」を開催。川内が撮り続けた甲賀市の福祉施設「やまなみ工房」の作家たちの作品もあわせて展示。

1. 本展について

川内倫子は1972年に滋賀県で生まれ、4歳までは滋賀で、その後は大阪で育ちました。川内の写真は柔らかい光をはらんだ独特の淡い色調を特徴とし、初期から一貫して人間や動物、あらゆる生命がもつ神秘や輝き、儚さ、力強さを撮り続けています。川内のまなざしは、身の回りの家族や植物、動物といった存在から、火山や氷河といった壮大な自然に対してまで等しく注がれています。日常にある儚くささやかな対象と、長い時を経て形成される大地の営みとが、独自の感覚でつながり、同じ生命の輝きを放っているところに、川内の作品世界の大きな魅力があるといえます。

タイトルでもある〈M/E〉は、本展のメインとなる2019年以降に撮影された新作のシリーズです。〈M/E〉とは、「母(Mother)」、「地球(Earth)」の頭文字であり、続けて読むと「母なる大地(Mother Earth)」、そして「私(Me)」でもあります。アイスランドや北海道で撮影した火山や流氷と、コロナ禍で撮影された日常の風景とは、一見するとかけ離れた無関係のものに思えますが、どちらもわたしたちの住む地球の上でおこっており、川内の写真はそこにある繋がりを意識させます。本展は、人間の命の営みや自然との関係についてあらためて問い直す機会となることでしょう。

川内は写真集『うたたね』、『花火』(リトルモア、2001) の 2 冊で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞し、今日まで精力的に写真集の刊行や個展の開催を行ってきました。2022年11月には、国際的な写真賞である Sony World Photography Award 2023 特別功労賞を日本人としてはじめて受賞。

本展は、国内では6年ぶり、そして故郷である滋賀でははじめての大規模個展です。この10年の活動に焦点を当て、未発表作品を織り交ぜながら川内の作品の本質に迫ります。

2. 開催概要

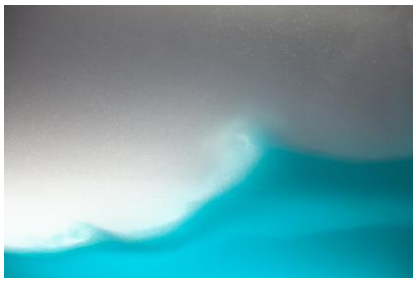
展覧会名:企画展「川内倫子:M/E　球体の上 無限の連なり」
会　　期:2023 年 1 月 21 日(土)～3 月 26 日(日)
休 館 日:毎週月曜日
開館時間:9:30～17:00(入館は 16:30 まで)
会　　場:滋賀県立美術館　展示室3
観 覧 料:一般 1,300 円(1,100 円)
　　高校・大学生 900 円(700 円)
　　小学生・中学生 700 円(500 円)
　　※( )内は 20 名以上の団体料金
　　※展示室1・2で同時開催している常設展も観覧可
　　※未就学児は無料
　　※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料
主　　催:滋賀県立美術館、朝日新聞社
後　　援:エフエム京都
協　　力:一般社団法人 KYOTOGRAPHIE
企　　画:荒井保洋(滋賀県立美術館 主任学芸員)、芦髙郁子(滋賀県立美術館 学芸員)
令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト　補助対象事業
(独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁)

3. 川内倫子について

写真家。1972年滋賀県に生まれる。2002年『うたたね』『花火』(リトルモア刊)の2冊で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞。著作は他に『AILA』(2005年)、『the eyes, the ears,』『Cui Cui』(共に 2005年)、『Illuminance』(2011年、改訂版2021年)、『あめつち』(2013年)などがある。2009年に ICP(International Center of Photography)主催の第25回インフィニティ賞芸術部門受賞、2013年に芸術選奨文部科学大臣新人賞(2012年度)を受賞。主な国内での個展は、「Cui Cui」(2008年・ヴァンジ彫刻庭園美術館)、「照度 あめつち 影を見る」(2012年・東京都写真美術館)、「川が私を受け入れてくれた」(2016年・熊本市現代美術館)ほか多数。近刊に写真集『Des oiseaux』『Illuminance: The Tenth Anniversary Edition』『やまなみ』『橙が実るまで』(田尻久子との共著)がある。

4. シリーズについて

〈4%〉



左③《無題》2012、右④《無題》2011(シリーズ〈4%〉より)

ロサンゼルスのアーティストインレジデンス THE LAPIS PRESS でのコミッションとして、2011 年にサンフランシスコ、2012 年にロサンゼルスにそれぞれ滞在して制作されました。球体や水平線など、宇宙をイメージさせる被写体が多く登場する、日本では初公開となるシリーズ。

〈An interlinking〉

左⑤《無題》2012、中⑥《無題》2014、右⑦《無題》2015(シリーズ〈An interlinking〉より)

川内の写真を象徴する 6×6 の正方形フォーマットで撮られたシリーズ。日常にあるイメージや小さな命の姿を、ローライフレックスの 6×6 フィルムでとらえています。過去 20 年以上にわたって撮影されたアーカイブから今回の展示のために構成した未発表を含む作品群を紹介。

〈光と影〉

左⑧《無題》2011、右⑨《無題》2011(シリーズ〈光と影〉より)

2011年4月、友人の写真家の案内兼通訳として訪れた石巻、女川、気仙沼、陸前高田で白と黒のつがいの鳩と出会ったことで生まれた作品。生と死、相反するものが同時に存在する世界を象徴するかのような 2 羽の鳩の姿を写しています。本展ではスライドショーで展示。

〈あめつち〉

熊本県阿蘇で古くから行われてきた野焼きを、4×5 のフィルムカメラを用いて撮影したシリーズ。 野焼きに加え、イスラエルの嘆きの壁など、自然への畏怖と人間の祈りや「捧げる」という行為に焦点を当てた作品が含まれます。

左⑩《無題》2013、右⑪《無題》2012（シリーズ〈あめつち〉より）

〈M/E〉

2019 年より川内が取り組んできた新作シリーズ。アイスランドの氷河や冬の北海道の雪景色、コロナ禍に自宅周辺で撮影した家族や生き物の姿などの身近な風景など、ミクロとマクロの視点から自然の姿を写しとっています。本展の中心に据えられたシリーズであり、空間全体を使った構成で展示します。

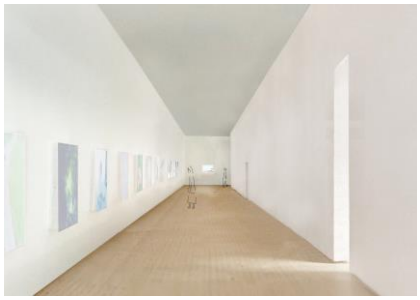
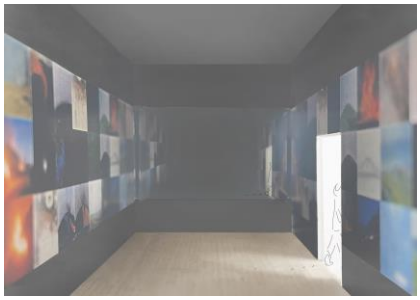
左⑫《無題》2019、右⑬《無題》2020（シリーズ〈M/E〉より）

〈Illuminance〉

2011 年に発行された写真集『Illuminance』の映像作品として発表され、展示される度に新しく映像を追加していくことをコンセプトとした作品。当初 10 分程度だった再生時間は増え続け、川内の活動の軌跡であると同時に、永遠に未完であり続ける作品でもあります。

5. 会場デザインについて

本展は、中山英之建築設計事務所が会場デザインを手がけます。川内の「自分が作品を制作する際に感じた感覚や経験を、展示空間において観賞者と共有したい」という想いに応えた空間が作り上げられます。

滋賀県立美術館展示イメージ（中山英之建築設計事務所）

6. 関連イベント

◆学芸員によるギャラリートーク ※当日先着順

開催日：2023 年 1 月 29 日(日)、3 月 5 日(日)

会　場：滋賀県立美術館　展示室3

定　員：20 名

実際に展示している作品を鑑賞しながら、展覧会を担当した学芸員が解説を行います。本展のチケットが必要です。

◆「講演会　光と闇の連なりをめぐって」 ※事前申込制

日　時：2023 年 2 月 12 日(日)

講　師：篠原雅武（哲学者、京都大学特定准教授）
会　場：滋賀県立美術館　木のホール
定　員：70 名程度
哲学者であり、川内氏の作品についてカタログにも論考を執筆している篠原雅武氏をお招きし、川内倫子作品の魅力に迫ります。聴講無料。

◆ワークショップ　たいけんびじゅつかん（子ども向け）　※事前申込制
日　時：2023 年 2 月 26 日（日）
会　場：滋賀県立美術館　ワークショップルーム、展示室3
定　員：15 名
参加費：未定　※保護者の方は観覧料（団体料金 1,100 円）が必要
本展を鑑賞後、展示で作品がどのように構成されているか、その工夫や背景を知り、展示空間を自分で考え、制作するワークショップです。

◆「写真とピアノによるセッションライブ」　※事前申込制
日　時：2023 年 3 月 18 日（土）
出　演：川内倫子、haruka nakamura（音楽家）
会　場：滋賀県立美術館　木のホール
定　員：70 名程度
写真家・川内倫子と音楽家・haruka　nakamura によるセッションライブをおこないます。聴講無料。

◆滋賀県美メンバーズ限定イベント「川内倫子　スペシャル・ギャラリートーク」　※事前申込制
日　時：2023 年 1 月 21 日（土）
解説者：川内倫子、当館担当学芸員
会　場：滋賀県立美術館　展示室3
定　員：30 名程度
当館の年間パスポート会員である滋賀県美メンバーズ限定イベントとして、川内倫子自ら解説を行うスペシャル・ギャラリートークを閉館後に行います。参加費無料。

※それぞれのイベントは都合により、内容・日時等が変更になる場合があります。
イベントの詳細や最新情報は当館 HP 等で御確認ください。

7. 同時期に開催する展覧会（常設展）

企画展関連特集展示　「川内倫子と滋賀」（展示室2）
2023 年 1 月 11 日（水）～5 月 7 日（日）
川内倫子には故郷である滋賀県での仕事も少なくありません。企画展の開催に合わせ、2021 年に当館のリニューアルオープンのために撮り下ろされた作品をはじめ、川内の作品の中でも特に滋賀との関わりの深いものを特集展示します。この特集展示では、滋賀県甲賀市にある福祉施設「やまなみ工房」を約3年にわたって撮影したシリーズ〈やまなみ〉もご紹介します。また、同工房にご協力いただき、所属作家の作品を川内の作品と同じ空間で展示します。

⑭《無題》2018（シリーズ〈やまなみ〉より）

「シュウカツ！ 護る、伝える、保存修理活動」（展示室1）
2022年11月29日（火）～2023年1月29日（日）

「シュウカツ！ 収集活動より―女性を描く中村貞以―」（展示室1）
2023年1月31日（火）～3月12日（日）

8.次回開催予定の展覧会（企画展）

小倉遊亀と日本美術院の画家たち 横山大観、菱田春草、安田靫彦、前田青邨、速水御舟ほか
2023年4月29日（土・祝）～6月18日（日）

9. プレス内覧会

（1）開催日時　2023年1月20日（金）13時～受付開始

（2）会場　滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町1740－1）

（3）タイムスケジュール

13:00～　プレス受付開始
13:30～14:10　展覧会場内覧（展示室3、展示室2）
14:10～14:50　説明会（木のホール）
・保坂ディレクターによるご挨拶
・川内倫子スピーチ
・展覧会内容紹介（担当学芸員）
・質疑応答
14:50～　自由取材

（4）参加申込み

参加を希望される方は、返信表に必要事項を御記入の上、2023年1月19日（木）12時までに、メールまたはファックスにてお知らせくださいますようお願いいたします。

お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）を御利用ください。

（5）注意事項

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、プレス内覧会の内容変更や開催中止となる場合があります。中止の場合は、参加申込みの際にいただいた御連絡先にお知らせいたします。

■注意事項
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連のガイドラインも踏まえ、必要な対策を講じてまいります。それに伴い、急な御案内の変更などが生じてくる可能性があります。詳細は、当館ホームページ（https://www.shigamuseum.jp/）を御確認ください。

プレス内覧会参加返信表

申込期限:1/19(木)12時

滋賀県立美術館行き

Fax　:077-543-2170
Email:museum@pref.shiga.lg.jp

＜必要事項＞

1)貴社名　：

2)御芳名　：

※参加される方すべての御芳名を記入してください。

3)参加人数:

4)ＴＥＬ　：

5)E-mail　：

6)通信欄　：

広報用画像申込書

滋賀県立美術館　教育・コミュニケーション室行き
Fax：077-543-2170　　E-mail：info@shigamuseum.jp

展覧会広報用素材として、作品画像等を用意しております。御希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項を御記入のうえ、FAXまたはメールにてお申し込みください。

****

媒　体　名：
種　　別：テレビ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　その他
発売・放送予定日：
御　社　名：
御担当者名：
E - m a i l：
T　E　L：
招待券希望枚数：　　枚（送付先住所：　　）

御希望の画像に✔をつけてください。

□	①川内倫子《無題》(シリーズ〈M/E〉より）2020
□	②川内倫子《無題》(シリーズ〈M/E〉より）2019
□	③川内倫子《無題》(シリーズ〈4%〉より）2012
□	④川内倫子《無題》(シリーズ〈4%〉より）2011
□	⑤川内倫子《無題》(シリーズ〈An interlinking〉より）2012
□	⑥川内倫子《無題》(シリーズ〈An interlinking〉より）2014
□	⑦川内倫子《無題》(シリーズ〈An interlinking〉より）2015
□	⑧川内倫子《無題》(シリーズ〈光と影〉より）2011
□	⑨川内倫子《無題》(シリーズ〈光と影〉より）2011
□	⑩川内倫子《無題》(シリーズ〈あめつち〉より）2013
□	⑪川内倫子《無題》(シリーズ〈あめつち〉より）2012
□	⑫川内倫子《無題》(シリーズ〈M/E〉より）2019
□	⑬川内倫子《無題》(シリーズ〈M/E〉より）2020
□	⑭川内倫子《無題》(シリーズ〈やまなみ〉より）2018

****

[使用条件]

※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※当館からの指定がない限り、トリミングは御遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトに御配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を負いかねます。

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。

※画像は本展の広報のみの御利用となります。御利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。

※読者プレゼント用の招待券の提供を御希望の場合は、本申込書の記載欄に御記入ください。